

デマ情報と人権

過去の大災害で

平成30年6月18日の大阪府北部地震のとき、「シマウマが脱走した」「ドーム球場の屋根に亀裂が入った」「電車が脱線した」など、一目で真偽を判断するのが難しい「デマ情報」が拡散されました。

平成28年4月14日の熊本地震のときも、「動物園からライオンが逃げた」という情報がSNSで1時間に2万件以上投稿されたそうです。当該の動物園には100件以上の問い合わせがあり、デマを流した男は偽計業務妨害で逮捕されました。



てきました。私たちはそれらの情報を直感的に「本当だ」「間違いない」と判断しがちで、誤った情報が急速に拡散されてしまいます（特に災害時は広がりやすい傾向があります）。

デマ情報が広がる背景

世の中には、デマ情報が拡散するのを面白がる人がいます。「ただ面白ければいい」と考え、それが理論的に正しいのか、思いやり

があるのかという視野を持ちません。情報を受け取る側にも、日々の生活が退屈で、面白いデマ情報があると飛びついて拡散してしまう人がいます。

人はインターネット上において、空気を読んで周囲に合わせる「同調志向」が強くなるといわれています。投稿の匿名性により無責任に、安易に何でも発信することができるところです。インターネットが普及した現在、だれもがデマ情報を広めてしまう危険を秘めています。

情報を見分けるには

法務省人権擁護局は「真偽をよく確かめ、冷静に行動しましょう」と注意を呼びかけています。しかし情報の多さ、拡散のスピード、発信元の不確かさにより、その真偽を確認することは大変難しくなっています。

デマ情報の多くは、



- 強調表現、不安をあおる表現、急がせる表現が多い
- 生命や金銭にかかわる内容が多い
- 情報源が記載されていない
- 伝聞形式で書かれたものが多い
- 拡散を求めている

という特徴をもちます。「ネット世界は嘘も本当も混在する」ことを認識し、すべての情報をうのみにせず、これらの特徴を持っていないか冷静に確認しましょう。災害時は特に冷静な判断が重要です。また、

- 公式ホームページを確認する
- 当事者に直接連絡する

○情報源を確認するなどの方法をとることも大切です。

私たちの責任

デマ情報がある一方、これまでの大災害の経験から、ボランティア活動に参加して被災者の人権を守ろうとする人も増えています。

災害時はもちろん、デマ情報により混乱を起こさないことは人としての責任です。正しい情報により、思いやりのある温かい世の中を目指しましょう。



☎ 教育委員会事務局

人権・同和教育係

☎ 0943・32・0093
(内線313)

広川町に残る城と館跡

川瀬城と矢賀部氏 その3

「稲員家文書」から考える矢賀部氏と稲員氏

平成9年度に刊行された「稲員家文書」を解読・活字化する中で、享禄2年(1529年)3月16日付の草壁良實(稲員十郎右衛門)の土地寄進状と、十郎・鑑栄(蒲池左衛門太夫・鑑興(蒲池常陸介)の連署表白断簡を読むことができました。

奉寄進
右の施主は親君右京亮草壁良雅。法名は覚盛、母に候は法名妙盛。逆修として善根(※)は、現世安穩後生善處。釈迦観音の尊容を右造に彫立てせしめ、神応山大聖寺に立置きおわんぬ。然して両尊佛の供田として、上広川太原名五町分の

内山下三丈、同名の内山別八丈、合わせて一段余の事、寄進し奉る所実なり。よつて状す件の如し。
とま 既に、

享禄貳年己丑三月十六日
 稲員十郎右衛門
 草壁良實(花押)

といった内容が記されています。

ここに施主として記されている草壁良雅は稲員(草壁)氏本流の人物で、寄進者の良實はその嫡嗣(草壁氏系譜)です。

十郎右衛門良實が親君と呼ぶことから、極めて濃い血縁関係がうかがえますが、「草壁氏系譜」に直接の記述はありません。

広川町郷土史研究会では、寄進者の良實は稲員氏を名乗ってはいるものの、

実は矢賀部氏からの婿養子ではないかと考えています。もしそうであれば、実家の父母のために稲員氏の所領から佛供田を寄進し、義父である草壁良雅が逆修供養の施主となったことになり、筋が通ります。

川瀬城がいつどのような戦いで終焉を迎えたかは分かっていません。天正14年(1586年)7月、広川谷にあったほかの城が薩摩島津の大軍勢に柔躰されて陥落したのと同時期かとは思われませんが、断定できる資料はまだ見つかっていません。

ちなみにもう一通の古文書である連署表白断簡は、大聖寺鐘勧進に関するものです。連署人の筆頭である十郎という人物も、稲員十郎右衛門良實ではないかと考えら

れます。

こちらは断簡で年号も不詳ですが、寄進状と同時期のものと考えられます。ほとんど不明であった逆修墓塔への佛供田寄進めぐり、矢賀部氏と稲員氏との意外な関わりをうかがうことができました。

広川町郷土史研究会

※善根：安楽な果報を招くべき善因となるもの

奉寄進



草壁良実の寄進状。実家の両親の逆修供養碑建立に際し、仏供田を寄進するもので、享禄2年(1529年)の年号がある。(稲員家文書)

広川町古墳資料館だより

11月11日(日)の「ひろかわ古墳まつり」で、古代の雰囲気を感じませんか? 弘化谷古墳の一般公開や、きゅーはく女子考古部(九州国立博物館)とのコラボイベント、資料館での企画展を予定しています。

彫刻家・考古学者・教育委員会の三者で進めてきた、彫刻技術から直弧文を解体する研究。企画展ではその成果を解説し、彫刻家・西平孝史氏の直弧文球(写真)や、直弧文彫刻体験ワークショップ参加者のアート作品などを展示します。

まつり当日は、実物大の石人山古墳石棺レプリカが出現するかも!? 乞うご期待です!

